



NEWS

VOL.
168

2014・10月発行



平成26年8月1日(金)～8月7日(木)

台湾コース

— 中華世界を体験し、自らのキャリアデザインを考える —



故宮博物院を見学



筆談も交えてコミュニケーション



夜市で買い物



小籠包づくりを体験

現在、中国経済の急速な台頭により、中国をはじめとする中華世界はアジアだけでなく全世界に様々な影響を与えています。その影響力は今後ますます大きくなり、近い将来、生徒たちが直接関わる機会も増え、と考えられ、中華世界なくして昨今の世界情勢を語ることはできなくなっています。中華世界の中で、特に治安面に優れており、親日的である台湾で今回初めて研修旅行を行いました。

5年生16名は、7日間の日程で、台湾で生産活動を行っている旭硝子の工場見学や、台北の開南大学、高雄の義守大学を訪問し、特別授業を受け交流会を行いました。他にも、総統府や故宮博物院、忠烈祠などを訪問して歴史に触れ、小籠包づくりや九份・夜市での見学や買い物を通し文化の一部も体験しました。その中でも今回、特に衝撃を受けたのが台北にある中正高校での交流会です。同い年である高校生の高い英語

力や物怖じせずに話すその勢いに圧倒されました。自分も日本も「このままじゃダメだ!」…直感的にそう感じ、今後の自分のあるべき姿を考える機会になりました。

交流会で出会った高校生・大学生をはじめ、台湾で出会った人たちは皆、言葉は上手く通じなくても、何度も丁寧に話しかけてくれ、こちらが言おうとすることを一生懸命に理解しようとしてくれました。その優しさや一生懸命さに応えようと、生徒たちも必死になって自分の思いや考えを伝えようとしていました。英語力を高めることももちろん大切ですが、それ以上に積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢も重要だと強く実感したようです。

急速なグローバル化に早くから対応し、勢いよく成長している台湾で見た発展した街並み、活気ある雰囲気、出会う人々の優しさ。五感で感じるものすべてが刺激的で、生徒それぞれに大きな収穫のあった、大変充実した研修となりました。

もっと英語を勉強しておけばよかったと感じました。それは、中国語であふれていたのに、台湾の高校生・大学生は英語がとても上手で、私が理解できなくて会話が續かないことが多かったからです。お互い英語が母国語ではないのに、あそこまで差が出るのは、やはり台湾がとても成長しているからなのだと感じました。そして、台湾には日本と国交を結んでいないのに、たくさんの日本の商品や機械がありました。統治を続けていた日本を嫌うこともなく、中華文化とともに日本の文化を取り入れる柔軟性があったからこそその成長だと思えます。最近言われている「グローバル化」の重要性を感じる事ができました。

5年3組 土師 彩奈

最初に見たのは高いビルやコンビニなど、日本と変わらない光景でした。さらに日本より活気があり、その語学力、教育システム、人柄を知ると、正直に言って10年先の日本は目立たない国、影響力のない国になってしまうと思いました。グローバル社会は私達を待つことなく進んでいき、このままでは、私達が働いている頃の日本はあつという間に置いて行かれることを知りました。そして、最低3ヶ国語は身につけないといけないという危機感を感じました。

5年5組 矢野 琢真

広大な工業地区や発達したインフラ、また都市部や開発地域を目にし、人々の活気に触れて過ごしたこの一週間で、台湾が今、急激に発展していることを実感しました。

また、台湾の大学生や高校生との交流会では、筆談やジェスチャーなども駆使してなんとかコミュニケーションをとることができました。台湾の英語教育はとても進んでいて、複数の言語を操る人もたくさんいらっしゃったので驚きました。初めて経験した中華世界は独特で、不思議なことがたくさんありましたが、台湾に行けて良かったです。

5年5組 實森 かな子

CONTENTS

●5年研修旅行	
台湾	1
パラオ	2
イギリス	2
北海道カヌー	3
●4年ニュージーランド語学研修	3
●2年ニュージーランド交換留学	4
●原爆手記朗読劇	4
●進学フォーラム	5
●教育研究会	5
●オープンスクール	5
●TOPICS	6
●文化祭Information	6
●CLUB NEWS	6

今年度も太平洋の島国「パラオ共和国」に本校5年生16名が行ってきました。日本から真南に3,000km、日本とは時差もないパラオ共和国は、世界でも屈指の親日国で日本語を公用語とする州も有しています。初日には、まずオールドエイジセンターを訪れ、歴史的経緯によって日本語を話せるパラオのお年寄りの方々と交流しました。その後、パラオ共和国環境大臣とミーティングを行い、観光産業と環境保護とのバランスの難しさを教わりました。2日目の海洋実習では、世界遺産に登録されているロックアイランドのミルキーウェイやロングビーチ、また世界でパラオにしかない毒の無いクラゲにも直に触れ、帰り際には、海に沈んだゼロ戦

も見学することができました。3日目にはJICA(国際協力機構)やJMAS(日本地雷処理を支援する会)で国際NGOの活動について学び、その後、世界的にも評価されているパラオのリサイクルセンターの視察をしました。最終日には世界最大級の飼育施設でイルカと触れ合い、午後にはパラオ高校の生徒達とバスケットボールの試合をして、「日本や広島のよいところ」という題目でプレゼンテーションをしました。パラオ人には、「ナカムラ」さんや「リョータ」くんなど、日本人と関わりのある名字や名前の人が多く、あらためて両国の関わりを深さを実感することができました。パラオの美しい海がこれからもずっと続くことを願いつつ、16名は帰国しました。



パラオの名所「ミルキーウェイ」にて



紙・段ボールのコンポスト場の見学

戦車が街中にそのままの状態であつたり、日本軍の戦闘機が海にそのまま沈んでいたのを見ました。原爆とは違う視点から「戦争」というものを見ることができました。 5年4組 藤原 郁也

自然いっぱいでも電化製品にもあまり頼らず生活している人たちを見ると、とても羨ましく思いました。異国の地を感じ、昔の戦争の跡を見たり、ゴミ処理問題や農機具の問題を考えたりすることにより、今私たちができることを考えていこうと思いました。今後は海外のボランティアなどにも参加してみたい、誰かの役に立ってみたいと思うきっかけとなりました。 5年2組 中野 夢果

5年生29名がイギリスへ語学研修に行ってきました。ロンドンからバスで2時間程離れたハーストカレッジに滞在し、午前は各レベル別の授業、午後はアクティビティを通じて異なる文化を持つ同年代の生徒と交流を持ちました。また、オックスフォードやカンタベリーなどへ行き、日本とは異なったイギリスの文化を感じ取りました。

ハーストカレッジにはトルコやポルトガル、スペイン、イタリア、中国、フランスと様々な国の生

徒がおり、全員が母国語ではない英語でコミュニケーションをとりましたが、初めのうちは、思いを上手く伝えることができずに悩む姿も見られました。しかし、授業やアクティビティ、生活の中で積極的に関わることができるようになり、自分の行動や気持ち次第で異なる文化を持つ人ともコミュニケーションがとれることを実感しました。また、2週間余り日本を離れることで、日本の文化や日本人の気質に改めて気づくことのできた研修旅行となりました。



授業の様子

今回のイギリスでの研修旅行は私にとって、とても意義深いものとなりました。語学研修の名の通り、英語を学ぶことが今回の研修旅行の目的ではあったのですが、その方法は日本で行われるような英語の学習方法とは根本的に異なっていました。授業で単語や文法の確認をした上で、様々なアクティビティやイベントを通じて生徒の英語でのコミュニケーション能力を養う、というものでした。そういった英語の学習方法は私にとってとても新鮮であり、それを通じて得た知識は、これからの私の人生においてとても大切なものになると確信しています。 5年2組 須山 理朗

他人との意思疎通手段が英語しかない状況に2週間身を置き、自分がなぜ英語を勉強しているのかが分かりました。大学受験のためではなく、社会に出てから必要になると頭では理解していたつもりでした。しかし、相手の英語をうまく聞き取れず場の空気を悪くさせ、うまく伝えられずどこかしいい思いをし、周りの外国人に置いて行かれるのを繰り返すたびに、英語が生きていく上で必要なツールであることを、身をもって、嫌と言うほど実感しました。それと同時に、生まれも育ちも言語も文化も違う人々を結びつけてしまう力が英語にはあることをひしひしと感じました。そんな中でほんの僅かでしたが、上手聞き取れたり伝わったりする瞬間があり、その瞬間の喜びは言い表すことができないほど嬉しいものでした。 5年4組 坂東 美月



ロンドン時計台前

5年研修旅行／北海道カヌー

平成26年7月21日(月)～7月26日(土)

今年度の北海道カヌー体験コースは20名の生徒が参加し、5泊6日の日程で行われました。このコースは釧路湿原を流れる釧路川の中流から下流までの約40kmを3日間かけて2名1組が協力しながらカナディアンカヌーで下ることが主な目的です。カヌー体験初日は阿寒湖で終日カヌーの操舵法などについての基礎を学び、翌日から川下りがスタートしました。ツアー初日はあいにくの雨模様でしたが、

翌日からは天候も回復し、カヌーを操りながら夏の日差しを受け、深緑に輝く釧路湿原の大自然を満喫しました。3日目の夕刻には全員最終ゴールまで漕ぎ切り、みんなで達成感を味わいました。このツアーではカヌーのインストラクターをはじめ多くの人と触れ合い、暗闇に光る満天の星空やホテルの光を目の当たりにするなど、日ごろ味わうことのできない貴重な体験もすることができました。



自然に囲まれた釧路川を下る



カヌーツアーを終えて(インストラクターとともに)

北海道カヌーコースに参加し、他人と協力することの難しさを改めて感じました。今回のカヌーは二人乗りで、前後に分かれて動かすものでした。二人の意思疎通ができていないと、カヌーは行きたい方向に全然進まず、誤って障害物にぶつかってしまうこともありました。しかし、二人の息が合うと思った通りに進むので楽しかったです。社会に出ても他人と協力し合うということは必要になってくると思うので、相手がどう動いて自分がどう動くかを学べたことは将来とても大きな財産になると思いました。

5年1組 小西 健文

僕は、この研修旅行に出発する前に「五感を使って自然を感じ取る」という目標を立てました。今回の研修旅行では、自分が予想していた以上に、北海道の大自然に圧倒されたと思います。例えば、カヌーに乗っている時、カヌーを漕ぐと聞こえてくる川の流れる音、生き物たちの鳴き声、そして目の前に広がる壮大な自然などを体感し、心も体もフレッシュすることができました。いつもとは違う環境、人々と生活することで素晴らしい経験ができたこの研修旅行を選んで、とても良かったです。

5年4組 土井 廉太郎

4年ニュージーランド語学研修

平成26年7月20日(日)～8月12日(火)

4年生30名は約3週間、ニュージーランド語学研修に参加しました。現地の高校に通い、ホストファミリーと過ごす生活。生徒たちは日本とは異なった生活リズムに最初は戸惑いを感じていたものの、ホストファミリーを始め、ニュージーランドの人々のホスピタリティーに支えられ、異文化を存分に楽しむことができました。

また、生徒にとっては自分の英語力を試される3週間となりました。今まで学校で学んだ

英語が伝わったときの喜びや、自分の気持ちを伝えたくても上手に表現できないもどかしさは実際に体験してみなければ分かりません。時間の表し方やものの頼み方一つにおいても様々な表現の仕方があります。普段の生活の中で使われる表現を実際に見聞きすることで吸収し、教科書だけでは見えてこない生の英語を体験できました。今回経験した喜びや悔しさをモチベーションにして更なる英語学習につなげて欲しいと思います。



バディと参加する高校の授業



ニュージーランドの大自然を満喫

この経験で私が学んだのはコミュニケーションに言語の壁はあまり関係ないということです。確かに、日本語と英語では言語は違うけれど、大切なのはそれだけではないと思います。どれだけ相手のことを知りたいか、どれだけ相手に自分のことを伝えたいか。その気持ちが相手に伝われば、相手も応えてくれる、それがコミュニケーションではないかと思いました。

4年2組 高橋 侑花

ニュージーランドに着いた頃は、ホストファミリーのしてくれることを全て受け身で受け取っていました。「夕飯を作ろう」と言われて手伝って、「お菓子を食べる?」と聞かれて「YES」と言って…。しかし、ニュージーランドで過ごすうちに、いつの間にか自分から何かを手伝えるようになり、欲しいものが言えるようになっていきました。ある日、「何か食べたい物がある?」と聞かれ、いつもならば「No thank you.」というところを、「Ice cream please.」と言ってみると、とても嬉しそうなお顔をしてもらえました。その時、自分から何かをしたいと言うとこんなにも喜んでもらえるのだと知りました。

4年3組 倉橋 桃子

2年ニュージーランド交換留学

平成26年7月27日(日)～8月12日(火)

記念すべき20周年目のニュージーランド交換留学は、天候にも恵まれ、充実したものでなりました。日本とは大きく異なる生活環境の中で、生徒たちは当初、文化の違いなどにとまどいを見せていましたが、すぐに順応し、積極的にコミュニケーションがとれるようになりました。

ホストファミリーやバサデナ中学校のみなさんと過ごした時間が非常に有意義なものであったことは、生徒たちのたくさんの笑顔が証明しているように思いました。また、20周年を記念して、8月6日の「ヒロシマの日特別集会」では角島誠校長による講話が行われました。



8月6日「ヒロシマの日特別集会」



最終日・交換留学生全員での記念撮影

ニュージーランドに行く前の私は、2週間も家族と離れて外国で生活することへの不安を抱えていました。しかし今は、それが信じられない思いです。ニュージーランドでの生活は新しい発見にあふれていました。ホストファミリーと暮らす中で、日本との違い、日本の長所や短所がよく分かりました。外国でホストファミリーと過ごすのは大変と思う人もいかもしれませんが、私は、英語に囲まれて過ごすのにもあまり苦はなく、食事にもすぐ馴染むことができました。また、ホストファミリーの優しさにとっても感動しました。空港での別れは一番つらかった思い出です。ホストファミリーの涙が忘れられません。この交換留学で苦労しましたが、今は、私にこの体験をさせてくれた方々に心から感謝しています。

2年1組 中村 優希

私がニュージーランドに行って変わったことは、外国に対するイメージです。ニュージーランドに行く前、外国は言葉も通じず怖いところで日本を出ることはないだろうと思っていました。しかし先輩の勧めもあり、意を決してニュージーランドへ行くと、その考えはまったく変わりました。なぜなら、英語を口で話すだけではなくジェスチャーや表情を工夫することで、自分の意思を伝えられたからです。さらに、私が一生懸命話そうとすると、相手も一生懸命理解しようとしてくれました。そのため、最初はただどしどしかった会話も次第に話せるようになりました。私の外国のイメージは、もう「怖い」ではなく、「行ってみたい」「楽しい」に変わり、日本と外国の壁をあまり感じなくなりました。この経験により私は視野を広げることができたと思います。

2年4組 内藤 百香

原爆手記朗読劇

平成26年7月12日(土)

原爆手記朗読劇「夏の雲は忘れない」が広島工業大学デネブホールにて上演され、本校の2年生と3年生が保護者や一般招待客とともに鑑賞しました。出演されたのは演劇界を代表するベテラン女優、川口敦子さん、高田敏江さん、寺田路恵さん、柳川慶子さん、山口果林さん、渡辺美佐子さんの6人。また本校からは、梅田怜奈さん(3年1組)、中村芽留萌さん(3年1

組)、辰上奈穂子さん(3年3組)、酒井萌衣さん(2年2組)、藤岡菜々さん(2年3組)の生徒5名が地元朗読者として共演しました。舞台上には被爆直後の街や人々の様子が映し出され、親や子を亡くした悲しみや苦しみ、平和への強い思いが朗読されました。感情を込めて読み上げられる朗読は心に迫るものがあり、生徒たちは真剣に聞き入っていました。

今回、私は朗読をする側でした。広島県民の私は小さい頃から「はだしのゲン」を読むなどして、原爆の恐ろしさを学んでいました。しかし、原爆を体験した方の気持ちを「読む」のではなく「言葉にして口に出す」ということは初めての経験でした。初めのうちは大差ないと思っていましたが、実際にやってみると声に出して読む方がより心に響きました。また言葉を音にすることで、自分だけでなく、他人に伝わりやすいということにも気づきました。文字や絵を通じて原爆を知ることも大事ですが、それを声に出すことで、より心に深く刻まれることが分かりました。自分が大人になっても、この朗読劇のことは忘れないと思います。

2年2組 酒井 萌衣

朗読劇を通じて、改めて原子爆弾とは恐ろしいものだと思います。劇の途中では、恐怖から顔をふせてしまいたくなるような場面もありました。でもこの原爆を実際に体験した人は、もっと恐くて話すのが辛いのではないかと思います。それでも被爆体験を話して下さるのは、このようなことを二度と繰り返してほしくないからだと感じました。この悲惨な体験が起きないように、これからも語り続けたいと思います。

3年5組 蒲生 裕太



手記を朗読する出演者たち



終演後の交流会

本校卒業生3名を迎え、進学フォーラムが実施されました。先輩たちは高校時代の生活リズムや勉強方法、大学の志望動機、受験に関するアドバイス、大学生活などの話をそれぞれの視点で講演していただき、生徒たちはその先輩たちの話に真剣に耳を傾けていました。今回講演していただいた3名の言葉に共通していたのは「学校の勉強が大切であること」と「モチベーションを維持することが大切であること」でした。今後の勉強方針や進路を決定する上で今回聞いたことを大いに役立てて欲しいと思います。先輩たちの言葉を載せておきます。

- 「模試や定期考査の解き直しは重要」
- 「宿題を大切に」
- 「友人からの質問に答えられるようになろう」
- 「志望校はオープンキャンパスなどで直接雰囲気を感じ取ろう」
- 「自分に合った勉強法を探そう」
- 「大学のことを調べることは重要」
- 「周りに助けを求めて、自分のメンタルをいい状態に維持する」
- 「小さい目標を立てて、それを達成し続けることでモチベーションを維持する」

パネリスト

山口 紗穂
【東京大学 理科一類】

伊藤 玲於奈
【東北大学 工学部】

小山 稔史
【大阪大学 外国語学部】



山口先輩の話に聞き入る生徒たち



具体例を交えて後輩たちにアドバイスを送る伊藤先輩



ユーモアあふれる話で会場の心を掴んだ小山先輩

教育研究会



5年生数学の研究授業



1年生英語Jの研究授業



3年生理科1の研究授業

7月15日(火)午後から教育研究会を行いました。5時間目は教科ごとに分かれ、研究授業を実施しました。多くの教員が見守る中で授業でしたが、生徒たちは緊張することなく懸命に頭を働かせ、発問に答えたり活動に取り組んだりしていました。6時間目には教科会をひらき、活発な意見交換が展開されました。最後の全体研修はシェルホールで実施しました。ICTを活用した指導のデモ、ビブリオバトルの実践、教育事情についての講話などを通して、教育の可能性を模索することができました。教員一同、研鑽をかさねて教育に取り組み自己を点検する真摯な姿勢を再確認しました。

オープンスクール



初めての楽器演奏にドキドキ



「人間」の授業を体験



話が弾む交流カフェ

今年度の本校オープンスクールは「夏は、なぎさへ」と題して開催されました。当日はたくさんの小学生や保護者の方たちが来校され、英語や人間などの授業に参加する「教科の学び体験」は、受付開始後すぐに定員に達したものもありました。クラブ活動体験、本校生徒が質問に答える交流カフェ、中学入試問題解説などの催しも大盛況でした。クラブ活動体験では小学生が本校の生徒たちと一緒に活動し、人工芝のグラウンドでサッカーをしたり、畳敷きの作法室でお茶を味わったりしました。参加された方々には「なぎさ生活」の一端を感じていただけたのではないのでしょうか。また来校された方々から、言葉遣いや案内など在校生の様々な面をほめていただき、大変うれしく感じました。

平成26年度全国高等学校総合体育大会 テニス競技大会



日程:8月2日(土)~8月8日(金) 会場:東京都 有明テニスの森公園
 団体戦:武久 翔悟(6-4)、丸石 拓海(5-5)、澤田 文弥(4-5)、竹野 光稀(4-3)、丸山 直人(4-1)、中村 俊文(6-2)
 個人戦:武久 翔悟



武久 翔悟くん、個人3回戦

日本テニス界の聖地・有明コロシアムで開催されたインターハイに、県代表として6名が参加しました。目標は「全国一勝」。団体1回戦東北学院(宮城)に3-0で勝利。集中力を切らさず個々の良さを発揮した展開でした。2回戦は第2シード湘南工大附(神奈川)に0-3と圧勝され、全国トップレベルの力を実感しました。個人シングルスでは武久翔悟くんが3回戦まで勝ち上がり、全国ベスト32と県代表として大健闘しました。この一年間、県大会での数多くの敗北・挫折を乗り越えて手に入れた全国大会出場でした。壮行会での部長の言葉通り、「多くの支えがあってこそ勝利」であり、応援していただいた全ての方への感謝を常に持ち奮闘した夏でした。

文化祭Information

今年の文化祭テーマは『Answer...』です。このテーマは5年5組の矢野琢真くんのアイデアで、「この文化祭が50回目の答えを示すものでありますように。そして...にはこれから先もまだ続いていく」という思いが込められています。50回目の集大成、そして未来へ向けて皆で力を合わせ、素晴らしい文化祭を作り上げましょう。

1日目 校内発表会

日時:平成26年11月7日(金) 場所:本校体育館

2日目 一般公開

日時:平成26年11月9日(日) 場所:本校校舎・体育館・グラウンド

CLUB NEWS

高校水泳部

- 平成26年度広島地区高等学校秋季水泳競技大会 水球の部
 日程:平成26年8月24日(日)
 成績:第5位入賞
- 第46回広島地区秋季水泳競技大会競泳の部
 日程:平成26年9月6日(土)・7日(日)
 成績:200m個人メドレー 小西 七海(4-2) 第4位
 400m個人メドレー 小西 七海 第2位

中学テニス部

- 第41回全国中学生テニス選手権大会中国大会
 日程:平成26年7月25日(金)・26日(土)
 成績:男子団体戦 第2位【全国大会出場】
 村竹 裕貴(3-4)・橋口 詩穂(3-2)
 木村 颯太(3-2)・田中 健登(3-1)
 田部 智也(3-4)・堀江 大介(3-3)
 秋吉 大地(2-4)・後藤 深太郎(1-4)
 男子ダブルス
 村竹 裕貴・秋吉 大地 ベスト16
 橋口 詩穂・木村 颯太 ベスト16
 男子シングルス
 村竹 裕貴 ベスト32
 秋吉 大地 ベスト32

- 第62回広島市中学校総合体育大会テニスの部
 日程:平成26年8月7日(木)・8日(金)
 成績:男子団体戦 第1位
 村竹 裕貴・橋口 詩穂・田中 健登・木村 颯太
 田部 智也・面真 保理仁(3-2)・後藤 深太郎
 女子:団体戦 第2位
 本田 樹乃佳(3-3)・藤田 りさ(3-5)
 藤村 野乃(3-4)・西村 朱音(3-2)
 橋本 幸音(3-4)・小島 萌(3-1)
 西村 茉莉(2-5)・松井 江美里(1-4)
 男子ダブルス
 村竹 裕貴・木村 颯太 第2位
 女子ダブルス
 藤田 りさ・藤村 野乃 ベスト8
 本田 樹乃佳・橋本 幸音 ベスト8

中学陸上部

- 第60回全日本中学校通信陸上競技広島県大会
 日程:平成26年7月5日(土)・6日(日)
 成績:共通女子四種競技 鎌田 なるみ(3-5) 第7位
- 第41回広島県中学校陸上競技選手権大会
 日程:平成26年7月19日(土)・20日(日)
 成績:共通女子四種競技 鎌田 なるみ 第6位

- 第62回広島市中学校総合体育大会陸上競技の部
 日程:平成26年8月30日(土)・31日(日)
 成績:1年男子走幅跳 津川 晃佑(1-3) 第4位
 坂元 友斗(1-4) 第8位
 共通女子4×100mリレー 第5位
 齋藤 理加(3-4)・三戸 佳織子(3-1)
 鎌田 なるみ・難波 彩実(2-4)

中学軟式野球部

- 平成26年度広島地区私立中学校軟式野球選手権大会
 順位決定戦
 日程:平成26年7月22日(火)
 成績:第2位

中学水泳部

- 第54回広島県中学校水泳競技選手権大会
 日程:平成26年7月26日(土)・27日(日)
 成績:800m自由形 小西 咲良(1-5) 第5位
 400m自由形 小西 咲良 第3位
 100m平泳ぎ 米田 晃成(3-1) 第8位
- 第63回広島県中学校総合体育大会
 日程:平成26年9月6日(土)・7日(日)
 成績:800m自由形 小西 咲良 第3位
 400m自由形 小西 咲良 第4位
 100m平泳ぎ 米田 晃成 第5位
 200m平泳ぎ 米田 晃成 第8位